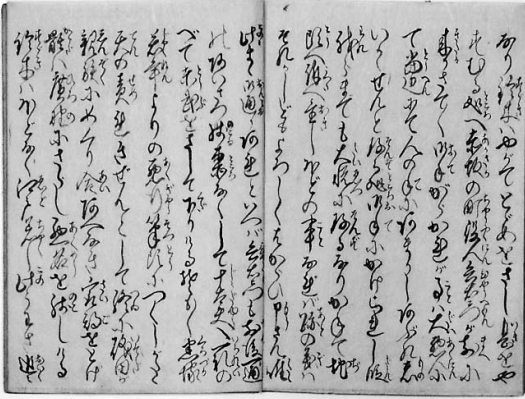


とら かい どりあ あかさかもの がたつ  
**東海道赤坂物語**

(152—199) 5冊

本書は、東海道三州赤坂宿の無法者・黒塚伝八の悪行一代記です。

赤坂宿で剣術指南をする浪人黒塚伝左衛門の子伝八は、武芸の腕をおごり喧嘩を好む暴悪者で「里の鷲 伝八」と異名をとり、皆に恐れられていました。父に勘当され、虚無僧となった伝八は江戸へ下り、兵法指南を始めます。徐々に門弟も増えましたが、刀の試し斬りで人を斬ろうとしたり、詐欺まがいに商家から大金をせしめたりなどの悪行を繰り返すうちに門弟らは去ってしまいます。暇に飽かせ、吉原通いを始めた伝八は若紫という遊女に熱を上げますが、若紫には磯田新之丞という恋人がいることを知って嫉妬し、磯田を闇討ちにして殺害してしまいます。ほどなく犯人は伝八だとの噂が立ったので慌てて江戸を出奔、赤坂宿へ戻り、街道筋でゆすりやたかりをして暮らすようになります。



▶この本は8月28日(日)まで開催の岩瀬文庫企画展「悪く資料に書き残された悪いひと」にて展示しています。ぜひご覧ください。

明和2(1765)年3月29日、細川家家臣・鈴木兵右衛門という老武士が、荷駄馬を避けようとして伝八にぶつかりました。兵右衛門は丁寧に詫言したのですが伝八は聞き入れず、赤坂宿近くの宮路山で果たし合いをすることになりました。老体で危うく見えた兵右衛門が伝八の油断を誘い、見事に斬り倒しました。赤坂の町役人が来て、伝八は我々も困っていた大悪人なので討つてくれてありがたいと語り、兵右衛門はお構いなしとなりしました。実は兵右衛門は、かつて伝八に殺された磯田新之丞の親類だったそうです。

シリーズ 64

西尾の古と探る

駿州下向記に書かれた吉良荘

永正10(1513)年4月、冷泉為成は駿河守護今川氏親に招かれて「富士見」を目的に、鈴鹿峠を越えて駿河国に下向しています。その時の道中記は、この地方の様子を伝える貴重な資料となっています。

氏)左京大夫から樽肴種々が送られています。18日には海路で恋の松原(蒲郡市)に着いた後「路次」にて藤原俊成ゆかりの地である「三川恋ノ松原」を見て、再び舟に乗って笠嶋(田原市)に至っています。

伊勢から海路で大野(知多郡)に入り、知多半島を横断して成岩に至り、海路にて大浜(碧海郡)へ着き、鷲塚から渡舟で西条(上吉良殿在所)にある実相寺真如院に着して宿をとっています。4月14日、15日に実相寺末寺に宿泊して和歌を詠み、2日間滞在し、雨であっても16日に真如院を立て、細池と鎌谷の二つの渡しを通過して東条(下吉良殿在所)に入り「門前海にて」とあるように琵琶島を眼前に望む三河湾に面した幡豆の長栄寺に逗留しています。そして、17日に下吉良(東条吉良

伊勢 大野 大浜 鷲塚 西野町 吉良 幡豆のルートは京から東国への交通路の一つであったと思われる、福地地区の低湿地では、細池ノ渡で弓取川を、鎌谷ノ渡で広田川(横須賀川)を通過しています。また、天文13(1544)年にこの辺りを通る連歌師宗牧は「わしつかの向かいには吉良義昭大家御里成べし、ここの眺望えもいはぬ入江の磯なり、船より馬ひきおろさせ、うちはへ行ほど、むさしの国まで思いやられる野徑うち過ぎて岡崎につきたり」と記されています。